一和尚御房

七月。畠山政近代、江沼郡福田莊幷びに山代の下地を還付せられんことを幕府に訴ふ。

【北野神社長享三年引付】　一〇五〇

畠山中務少輔政近代謹言上

加賀國福田庄幷山代等事

右子細者、鹿苑院(足利義滿)殿様御代至德二年仁、爲長崎四郎跡被成下御判知行之處、勝定院(足利義持)殿様御代、曾祖父將監入道御折檻之刻、一端北野社家に雖被寄之、軈而被召出、則被返下、四季之神樂於被定置以來、令全知行訖。然仁去長祿二年、不預御糺明、松梅院申掠直務仕候段、不便之至也。所詮於神樂料者、如先々致其沙汰、於下地者任支證之旨、如元被返下、彌爲致奉□忠節、粗言上如件。

長享三年七月　日

（長享三年九月の條參照。）

八月五日。幕府、近江延暦寺學頭代に、攝津政親所領河北郡倉月莊の地を押妨するを停む。

【美吉文書】武藏　一〇五一

左京大夫局雜掌申、加州倉月庄内礒部廿町方事、動及違亂云々。言語道斷之次第也。所詮不日可被止其妨。猶以爲同篇者、可有異沙汰之由被仰出候也。仍執達如件。

長享三　八月五日

宗(飯尾元連)　勝　在判

數(松田)　秀　在判

山門本院北谷學頭代

（文明九年十月十五日の條參照。）

九月。山城北野宮寺雜掌、江沼郡福田莊幷びに山代の知行に就いて畠山政近代に應訴す。

【北野神社長享三年引付】　一〇五二

北野宮寺雜掌謹支言上

加賀國福田庄幷山代半濟等間事

右彼庄者、爲重色御願之御料所、去應永廿五年十二月十八日御寄進御判炳焉也。其後一旦雖令不知行、依申開、去長祿二年四月十六日重被成下還補御判、于今知行無相違之處、畠山中務少輔政近號舊領被及訴訟云々。既當社領事者、有本主雖及訴訟、有其理者可宛行替地。於宮寺領者、永代爲不易之地可專神用之由、御判幷御教書等明鏡上者、早被棄捐彼濫訴、彌可奉致御祈禱精誠者也。仍粗謹言上如件。

長享三年九月　日

（長享三年七月の條參照。）

○

【北野神社長享三年引付】　一〇五三

畠山中務少輔政近代申北野宮寺領加賀國福田庄幷山代半濟等事、支狀到來畢。可被出帶文書正文候由也。仍執達如件。

延德元　十月十一日

長(松田)　秀　在判

清(飯尾)　房　在判

松梅院

○

【北野神社長享三年引付】　一〇五四

畠山中務少輔政近代申北野宮寺領加州福田庄幷山代半濟等事、先度可被出帶文書正文旨被相觸之處、無音太不可然。不日可被出帶之由也。仍執達如件。

延德元　十月廿七日

長　秀　在判

清　房　在判

松梅院

十月二日。幕府、敷地彦右衞門尉の山城北野宮寺領江沼郡福田莊領家職を押領せるを停め、社家代官をして所務を全うせしむ。

【北野神社長享三年引付】　一〇五五

北野宮寺領加賀國福田領家職事、爲嚴重社領之處、敷地彦右衞門尉押領云々。因茲神事以下及退轉之條、言語道斷次第也。所詮社家代官入部之上者、不日避渡之、可被全所務、更不可有難澁之由被仰出也。仍執達如件。

延德元　十月二日

長(松田)　秀　在判